



# きのこ

静岡県立森林公園の

マツ林やコナラなど広葉樹の林、丸太積みやフカフカの落ち葉だまり。森林公園にはきのこの生育に適したいろいろな環境がそろっています。きのこを探して森歩きを楽しんでみませんか？

※園内はきのこを含む動植物等の採取は禁止です



**コイヌノエフデ**  
Mutinus borneensis Ces.  
スッポンタケ目スッポンタケ科  
キツネノロソク属

腐生菌。夏～秋に林の落ち葉の積もる所で見られます。木の焦げたような臭いがします。頂部には亀甲模様があります。頂部の赤色と柄の薄色の差がはっきりしています。よく似たキツネノエフデは色の境目がグラデーションです。



**アシボソノボリリュウタケ**  
Helvella elastica Bull.:Fr  
チャワンタケ目ノボリリュウタケ科  
ノボリリュウタケ属

菌根菌。子嚢菌の多くは、腐生菌ですが、ノボリリュウタケのなかまは菌根菌とされています。夏～秋に林のなかで見られます。子嚢盤はくら形です。円柱状の柄には、たての溝がありません（よく似たノボリリュウタケには溝があります）。



**シロヤリタケ**  
Clavaria acuta Sowerby  
ハラタケ目シロソウメンタケ科  
シロソウメンタケ属

腐生菌。夏～秋に草地で見られます。こん棒のような形をしていて、1本ずつ生えます。円筒形で中空、とてももろいのです。基部が半透明なのが特徴です。



**カレエダタケモドキ**  
Clavulina rugosa (Bull.) J. Schrot.  
アンズタケ目カレエダタケ科カレエダタケ属

腐生菌。春～秋に林内の地上で見られます。こん棒のような形ですが、少し枝分かれもします。肉質に弾力がありそれほどもろくありません。



**キソウメンタケ**  
Clavulinopsis helvola (Pers.) Corner  
ハラタケ目シロソウメンタケ科  
ナギナタタケ属

腐生菌。林内の地上で見られます。子実体は黄色です。こん棒のような形をしていて先端はとがらず、根元は細くなります。普通、1本ずつ生えます。よく似たナギナタタケは先端がとがり、柄が不明瞭で多数束生します。

## きのこの生活

きのこは、他の生物から栄養をとって生きる「従属栄養生物」です。栄養の摂り方には3つのタイプがあります。

**ふせいせん 腐生菌** 主に死んだ植物を食べます。枯れた材を分解・吸収する木材腐朽菌、落ち葉を分解する落葉分解菌、草食動物の糞などを分解する糞生菌があります。褐色腐朽菌は針葉樹に多く、材のセルロース、ヘミセルロースを分解します。リグニンの残った褐色腐朽材は栄養分が少ないため微生物も少なく、倒木更新の苗床となるようです。白色腐朽菌は広葉樹に多く、材のリグニンまでも分解します。腐生菌は、分解酵素を生産し、土壌小動物、ミミズ、ダニなど動物の力も借りながら難分解性の木材や落ち葉を分解する森の掃除屋です。植物が利用可能な無機養分になることで森の物質が循環します。

**きんこんせん 菌根菌** きのこの菌糸が生きた植物（マツ科、ブナ科などに多い）の根について共生生活をします。きのこは植物が光合成で得た糖類をもらい、植物はきのこの菌糸が土中から吸収する窒素、リン、その他ミネラルなどをもらいます。

**きせいせん 寄生菌** ほかの生物に侵入して一方的に養分をとります。生きた昆虫に寄生する「冬虫夏草」や、生きた植物、ほかのきのこ（菌類）に寄生するものもあります。

参考文献：「山溪カラー名鑑日本のきのこ」今岡六也ほか（山と渓谷社）「静岡のきのこ」本郷次雄 監修、静岡木の子の会 編・著（静岡新聞社）、「小学館の図鑑 NEO きのこ」保坂健太郎著（小学館）  
写 真：静岡県立森林公園



**ヌメリイグチ**  
Suillus luteus (L.: Fr.) Roussel  
イグチ目ヌメリイグチ科ヌメリイグチ属

菌根菌。夏～秋にマツ林で見られます。傘はまんじゅう形から平らに開きます。傘の表に強いぬめりがあります。柄につばがあり、つばより上には細かい点々があります。つばはそのうち消失します。



**チチアワタケ**  
Suillus granulatus (L.: Fr.) Roussel  
イグチ目ヌメリイグチ科ヌメリイグチ属

菌根菌。夏～秋にマツ林で見られます。傘はまんじゅう形から平らに開きます。湿時には、傘の表に強いぬめりが出ます。柄につばがないことがヌメリイグチとの識別点になります。幼時管孔からクリーム色の乳液が出ます。



**アカハツ**  
Lactarius akahatsu Tanaka  
ベニタケ目ベニタケ科チチタケ属

菌根菌。夏～秋にアカマツ林で見られます。傷つけると橙色の乳液がにじみ出て、ワイン色から次第に青緑色のしみになります。よく似たハツタケは傘の表の環紋がよりはっきりします。ハツタケもアカハツも古くから食用にされてきました。



**キチチタケ**  
Lactarius chrysorrheus  
ベニタケ目ベニタケ科チチタケ属

菌根菌。夏～秋にアカマツ・コナラ林で見られます。傘の中央はやや凹み、環紋があります。英名は Yellowdrop Milkcap、傷つけると白色の乳液が出ますが、すぐ黄色に変色します。



**クギタケ**  
Chroogomphus rutilus (Schaeff.) O.K. Mill.  
イグチ目ウギタケ科クギタケ属

菌根菌。夏～秋にマツ林で見られます。傘は円錐形に開き、多くは中央が山形に突出します。傘の直径は1.5～6.5 cm、表は湿時には粘性があります。ひだは疎で垂生です。柄は繊維状です。食べられるきのこです。



**トキイロラッパタケ**  
Cantharellus luteocornus H.E. Bigelow  
アンズタケ目アンズタケ科アンズタケ属

菌根菌。秋にマツ林で見られます。傘の直径は1～3 cm、淡桃色、淡黄色、白色のものがあります。中央が凹みラッパのような形をしています。しわひだはあまり目立ちません。よく似たアンズタケはマツ科ブナ科などと菌根を形成し、県内各所で見られます。

本号制作にあたり、池ヶ谷のり子氏、池ヶ谷憲司氏に多大なるご協力を賜りました。心より深く感謝申し上げます。

### ビジターセンター バードピア浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料：無料
- 開館時間：9:00～16:30
- 休館日：毎週水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29～1/3）
- 問合せ：☎ 053-583-0443

### 木工体験館

気軽に木工作業を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。

- 木工作：金・土・日
- 開館時間：9:00～16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
- 休館日：月・火・水と年末年始（12/29～1/3）
- 問合せ：☎ 053-583-1559





**マツオウジ**  
*Neolentinus* sp.  
 キカイガラタケ目キカイガラタケ科  
 マツオウジ属

腐生菌。マツなどの針葉樹の枯れ木に生え、材を褐色腐朽します。傘の直径は 25 cm 以上のものであるなど大きめで白っぽい。松ヤニのような匂い、ひだの縁のギザギザが特徴です。「マツに旺盛に生える」が名の由来。食用とされますが時に中毒もあるようです。



**アズマタケ**  
*Inonotus vullatus* (Berk.)  
 Nunez et Ryvarden  
 タバコウロコタケ目  
 タバコウロコタケ科カワウソタケ属

腐生菌。アカマツの根株を白色腐朽します。亜熱帯～暖帯に生えるため県内では里山のマツ林のきのこと言えます。通年見られます。傘は円形～じん臓形で、肉厚な印象です。柄があります。傘の表は茶色の縞模様があり、傘の裏は細かい管孔になっています。



**アカヤマドリ**  
*Rugiboletus extremiorientalis*  
 (L. Vass.) G.Wu & Zhu L. Yang  
 イグチ目イグチ科アカヤマドリタケ属

菌根菌。夏～秋にコナラ・シイなどの林で見られます。傘の直径は 10～26 cm、明るいオレンジ色のおおぶりなきのこです。傘はしわが多く、成長するとひび割れが目立ちます。湿時にはヌメリが出ます。管孔は黄色で孔口は小さいです。鍋物にするなど食べられます。



**オオキノハダトマヤタケ**  
*Inocybe rimosa* (Bull.)  
 P. Kumm.  
 ハラタケ目アセタケ科アセタケ属

菌根菌。夏～秋にブナ科木下で見られます。傘の直径は 2～6.5 cm、円錐形で中央が盛り上がり、表面は繊維質、有毒。



**チャツムタケ**  
*Gymnopilus picreus* (Pers.)  
 P. Karst.  
 ハラタケ目ヒメノガステル科  
 チャツムタケ属

腐生菌。秋にマツなど針葉樹の朽木に群生、束生します。傘は円錐状釣鐘形からほぼ平ら、傘の表は滑らかです。老菌は傘周辺に条線が見られます。ひだは黄色から胞子が熟すと赤茶色になります。つばはなく柄の中は空洞です。苦味があるので食用には不向きです。



**シハイタケ**  
*Trichaptum abietinum*  
 (Dicks.) Ryvarden  
 タバコウロコタケ目所屬科未確定  
 シハイタケ属

腐生菌。夏～秋、主にマツ・トウヒ属の枯れ木で見られます。よく似たウスバシハイタケはモミ属の枯れ木を腐らせ、半背着生で柄はなく、半円形の傘は重なり群生します。傘の表は縞模様があります。傘の裏は管孔で、最初は淡紫色をしていることから名は「紫茸茸」です。



**ベニヒガサ**  
*Hygrocybe cantharellus*  
 ハラタケ目ヌメリガサ科アカヤマタケ属

腐生菌。夏～秋に林の地面で見られます。小型ですが、鮮やかな赤が目を引き惹きます。傘の表には細かい鱗片があり、ザラザラして見えるのが特徴です。傘の中央はやや凹んでいます。ひだは垂生、まばらで淡黄色、変色性はありません。



**クチベニタケ**  
*Calostoma japonicum* P.Henn.  
 イグチ目クチベニタケ科クチベニタケ属

菌根菌。夏～秋にブナ科の林の崖面で見られます。胞子を出す孔が星形で、赤色をしており、まるで紅をさしたおちよぼ口のようなです。球形の頭部に胞子が詰まっています。細いタコの足状の偽柄はゼラチン質です。最近、イグチの仲間であることがわかりました。



**ヒメカバイロタケ**  
*Xeromphalina campanella*  
 (Batsch:Fr) Kuhner & Maire  
 ハラタケ目ガマノホタケ科  
 ヒメカバイロタケ属

腐生菌。夏～秋に林の中のコケに覆われたマツなど針葉樹の朽木等に群生・束生します。園内では散策路沿いに積んである倒木でよく見かけます。湿時には、傘に条線が現れます。傘の中央は少しくぼみます。



**ニガクリタケ**  
*Hypholoma fasciculare*  
 (Hudson: Fr.) Kummer  
 ハラタケ目モエギタケ科クリタケ属

腐生菌。通年見られます。枯れ木や切り株で散生、束生します。苦味が強く猛毒(毒成分:ファリキユロール E, F)、死亡例報告があります。傘の直径は 1～5 cm で、まんじゅう形からほぼ平らに開き、中央は黄褐色です。最初、周縁部にクモの巣状の被膜の名残があります。



**アカイボカサタケ**  
*Entoloma quadratum*  
 (Berk. & M.A. Curtis) E. Horak  
 ハラタケ目イッポンシメジ科  
 イッポンシメジ属

腐生菌。夏～秋に林の中で見られます。傘の直径は 1～6 cm、円錐形～円錐状釣鐘型。イッポンシメジ科らしいきのこ。傘の中央が突出し、湿時には傘に条線が現れます。柄も赤色、上下同幅で中空です。有毒とも言われます。



**ホコリタケ**  
*Lycoperdon perlatum* Pers.  
 ハラタケ目ホコリタケ科ホコリタケ属

腐生菌。夏～秋に林や草地で見られます。洋コマ形のきのこ。球状の頭部には多数の棘があります。成熟すると頂部に孔が開き、胞子を出します。内部が白色の幼菌のときは食べられるようです。別名キツネノチャブクロ、英名は、Common Puff Ball。



**キチャホライタケ**  
*Xeromphalina caudicinalis*  
 (With.) Kuhner et Maire  
 ハラタケ目ガマノホタケ科  
 ヒメカバイロタケ属

腐生菌。針葉樹の落ち葉や落枝を分解するきのこです。園内ではアカマツの樹下、地面で群生しているのが見られます。傘の直径は 1～2.5 cm、黄褐色で中央がやや凹み、平たく開きます。傘は肉薄な印象。柄は 2～8 cm で黒褐色、基部に長毛があります。



**ハナウロコタケ**  
*Stereopsis burtianum* (Peck)  
 D.A. Reid  
 タマシヨレイタケ目シワタケ科  
 ハナウロコタケ属

腐生菌。秋に林の中の地面に群生します。10月頃には、園内散策路沿いでたくさん見られます。傘の直径は 0.5～2 cm、じょうご型、肉は薄く、傘の裏はしわが少し寄っていて、短い柄があります。茶色と白のツートンが目立ちます。



**キイボカサタケ**  
*Entoloma murrayi*  
 (Berk. & M.A. Curtis) Sacc.  
 ハラタケ目イッポンシメジ科  
 イッポンシメジ属

腐生菌。夏～秋に林の中で見られます。傘の直径は 1～6 cm、円錐形～円錐状釣鐘型。傘の中央が突出し、湿時には傘に条線が現れます。傘も柄も鮮やかな黄色で目を惹きます。ひだは胞子が熟すと肉色を帯びます。有毒とも言われます。



**エリマキツチグリ**  
*Geastrum triplex*  
 (Jungh.) Fisch.  
 ヒメツチグリ目ヒメツチグリ科  
 ヒメツチグリ属

腐生菌。夏～秋に林の中で見られます。幼菌は球状。外皮が裂け星状に開きます。頂部が開き、胞子を出します。見た目が似ているツチグリはイグチ目で、系統的には遠縁です。ツチグリは開いた外皮は乾けば再び閉じますがエリマキツチグリは一度開くと戻りません。